

# 社会的な思考力・表現力を育成する授業方法の工夫

## ―トレーニング学習と社会的な見方・考え方を働かせる授業を通して―

千葉市立さつきが丘中学校 教諭 石橋 有喜

### 《研究の概要》

本研究は、社会的な思考力・表現力を育成することを目的とした。①反復的かつ継続的なトレーニング学習（予習プリント及び単元語句テスト）と、②基礎的・基本的な知識を活用した社会的な見方・考え方を働かせる学習（思考ツールを用いた社会的な見方・考え方を働かせる学習）を組み合わせることで、生徒の社会的な思考力・表現力を育成できることが分かった。

### 1 問題の所在

平成 29 年に告示された新学習指導要領においては社会的な見方・考え方を働かせた思考力・判断力・表現力等の育成が掲げられている。

「千葉市学校教育の課題 21 世紀を拓く」では、社会的な見方・考え方を働かせながら、生徒が「分かった」「できた」と実感できる授業（「わかる授業」）を創造することが課題とされている。社会科においては、「基礎的・基本的な知識の習得及び活用を図るとともに、社会的な事象のもつ意味を複合的・総合的な視点で捉え、思考力・判断力・表現力等を育む授業実践に努める」と挙げられ、基礎・基本の定着とそれらを活用した思考力・判断力・表現力の育成が求められている。

ここで言う社会的な思考力・判断力・表現力とは何か。加藤(2015)らは、社会的な思考力・判断力・表現力を①複数の知識や資料から読み取った情報を組み合わせ、社会的な事象の原因や背景、意義を解釈して説明する力、②社会的な事象を評価的に判断できる力、と定義している。本研究では、この「①複数の知識や資料から読み取った情報を組み合わせ、社会的な事象の原因や背景、意義を解釈して説明する力」を思考力・表現力、「②社会的な事象を評価的に判断できる力」を判断力ととらえ、思考力・表現力を育成することに主眼を置くこととする。思考力・判断力・表現力という三つの力は、お互い密接に関係していることは言うまでもないが、加藤らの言う「①複数の知識や資料から読み取った情報を組み合わせ、社会的な事象の原因や背

景、意義を解釈して説明する力」が身につくまで初めて「社会的な事象を評価的に判断」する段階に到達すると考えたからである。

本校 3 学年生徒 70 名を対象にした事前調査では、中学 2 年生で学習した範囲（歴史的分野）から教科書（『新しい社会歴史』東京書籍）で太字表記されている語句を問う問題を 20 問（教科書左ページに記載されている語句から 9 問、同右ページから 11 問）出題したところ、正答率は 38.21%であった。基礎的・基本的な知識を問う問題であるが、正答率は 50%に到達しておらず、思考力・表現力の基となる知識の習得が不十分であると考えられる。

そこで本研究では、千葉市の学校教育において掲げられている「分かる授業」を、トレーニング段階での「（どういうことか）分かる」と活用段階での「（考察や課題解決への構想が）できる」に分けて考えたい。①トレーニングによって基礎的・基本的な知識を習得させること、②社会的な見方・考え方を働かせながらそれらの知識を活用させる活動を取り入れること、の二つを柱にして生徒の思考力・表現力を育成することに取り組むことにした。

### 2 研究の目的と方法

#### (1) 研究の目的

本研究の目的は、反復的かつ継続的なトレーニング学習と、基礎的・基本的な知識を活用する社会的な見方・考え方を働かせた学習を組み合わせることによ

て、社会的な思考力・表現力が向上することを明らかにすることである。

## (2) 研究の方法

具体的な手立てを以下の6点とした。

- ①予習プリントの実施（トレーニング学習）
- ②単元語句テストの実施（トレーニング学習）
- ③思考ツールの考案
- ④思考ツールを用いた社会的な見方・考え方を働かせる学習（見方・考え方学習）の実施
- ⑤レポートテストの評価基準を決める
- ⑥レポートテストの実施（単元ごと）
  - ・単元語句テストの結果から、基礎的・基本的な知識の定着度を検証
  - ・思考ツールを用いた社会的な見方・考え方を働かせる学習を、実施した場合と実施しない場合のレポートテストの点数をt検定で検証し、生徒の思考力・表現力が向上しているかを検証

## 3 研究の内容

### (1) 研究計画

各研究を実施する時期と単元ごとの実施内容は〔表1〕の通りである。一部の単元を除いて、毎授業で予習プリントを実施する。単元の学習の最後に1～2時間を使い、単元語句テスト、見方・考え方学習、レポートテストを順番に行う。それぞれの実践の詳細は以下の通りである。

〔表1〕本研究における単元と実施内容

月	単元	実施内容
6	【歴史的分野】 二度の世界大戦と 日本	・予習プリント ・単元語句テスト①
7	二度の世界大戦と 日本	・予習プリント ・単元語句テスト② ・レポートテスト①
8	現代の日本と世界	・予習プリント ・単元語句テスト③
9	【公民的分野】 新型コロナウイルス感	

	現代社会と私たちの生活	染予防に伴う授業進度調整のため、研究活動は実施しない。
10	個人の尊重と日本国憲法	・予習プリント ・単元語句テスト④ ・レポートテスト②
11	現代の民主政治と社会	・予習プリント
12	現代の民主政治と社会	・予習プリント ・単元語句テスト⑤ ・見方・考え方学習① ・レポートテスト③
1 2	私たちの暮らしと経済	・単元語句テスト⑥ ・見方・考え方学習② ・レポートテスト④

### (2) トレーニング学習について

#### ①予習プリント（全49回実施）

予習プリント③（日本国憲法三原理～その1～） /5

組 番 氏名 \_\_\_\_\_

日本国憲法の基本原理の一つである(①)は、国の政治の決定権を国民がもち、政治は国民の意思に基づいて行われるべきという原理です。国の政治は一部の人間だけでなく、国民全員によって決定されなければいけません。①とはこのような(②)の思想の現れです。

①の下での国の政治では、主権者である国民によって選ばれた代表者が(③)で決定するという(④)が採用されています。

また、国民一人一人が積極的に政治に参加することも大切です。特に③の議員を選ぶ(⑤)は国民にとって大切な機会です。

〔資料1〕予習プリント

毎回の授業の冒頭に5～7問の語句チェックを実施した〔資料1〕。基礎的・基本的な知識を定着させるねらいがあり、一部の単元を除いて、1年を通して実施した。その日の授業で取り扱う予定の内容に関連させて、教科書本文の語句を問う形式であり、後述の理由より、語句は全て教科書の左側ページから出題した。

#### ②単元語句テスト（全6回実施）

単元の学習の終わりに、教科書に太字表記されている語句を20問選出して出題した。単元ごとに語句の習熟度を確認するねらいがあり、後に行うレポートテストのレディネスを調べた。予習プリントは教科書の

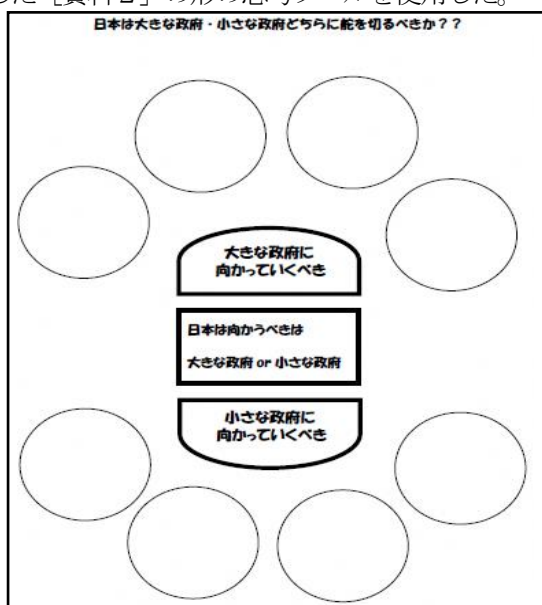
左側ページに掲載されている語句のみを対象としているため、このテストで教科書の左右ページの語句ごとの得点を比較することで、予習プリントの有無によってレディネスの高まりに変化があるかを調査した。

### (3) 思考ツールを用いた社会的な見方・考え方を働かせる学習について (全2回実施)

本校の生徒の実態を考慮し、思考ツールは簡単に書き込むことができ、つながりが分かるものを作成した [資料2]。この学習では、単元で取り扱った内容に関する問いを出題した。なお、対象が3年生であり、限られた授業時数の中で実施しなければならなかったため、2回の実施とした。問いは以下の通りである。

- ①日本は義務投票制にすべきか否か (公民的分野)
- ②日本は大きな政府・小さな政府どちらに舵を切るべきか (公民的分野)

これらの学習は、トレーニング学習で得た基礎的・基本的な知識をもとに思考力・表現力を向上させることをねらいとした。問いに対する答えを出すために、思考ツールを用いて情報の関連付け、整理、比較といった社会的な見方・考え方を働かせる学習に取り組ませた。2回の実践では、いずれもクラゲチャートに応用した [資料2] の形の思考ツールを使用した。



[資料2] 今回使用した思考ツール

自分が単元で獲得した基礎的・基本的な知識が、現代社会が向き合うべき課題にどのように関わっているのかを視覚的にとらえさせるためのツールである。生

徒にはこれまでの学習を踏まえて、「大きな政府に向かっていくべき」、「小さな政府に向かっていくべき」という両方の結論につながる根拠をそれぞれ周囲の円に記入させた。その後、3・4人ずつのグループに分かれて、それぞれが記入した根拠について発表させた。グループでは、それぞれが発表した根拠が本当に結論へとつながるのか議論した後、自分の結論がどちらになるのか分かるようにした。

### (4) レポートテストについて (全4回実施)

レポートテストでは、思考力・表現力を評価するために、単元で取り扱った内容に関する問いを出題した。レポートテストでは、問いに対する答えに加えて、自分がそのように考えた理由を記述させた (全4回とも解答欄は400字程度 [資料3])。

[資料3] レポートテスト

出題した問いは以下の通りである。

- ①太平洋戦争に進んだ日本にとって、1番大きな分岐点となる出来事は何だったのか (歴史的分野)
- ②日本は外国人参政権を認めるべきか否か (公民的分野)
- ③日本は義務投票制にすべきか否か (公民的分野)
- ④日本は大きな政府・小さな政府どちらに舵を切るべきか (公民的分野)

いずれの問いも事前に生徒に通達した。また、レポートテスト①、②は思考ツールを用いた社会的な見方・考え方を働かせる学習を実施せずにテストに取り組みさせたのに対して、レポートテスト③、④は同学習を実施した後にテストに取り組みさせた。よって、①、②と③、④の結果を比較することで、思考ツールを用いた社会的な見方・考え方を働かせる学習の成果を調査した。評価は、「思考・表現」と「文字数」という二つの観点で行った。「思考・表現」は語句を正しく理解したうえで社会的事象を正しく表現できているか、「文字数」は解答欄に対する文字数の割合を、いずれも5段階で評価した（[表2]及び[表3]）。評価の観点に「文字数」を採用した理由は、それぞれの問いに対して「思考・表現」の5段階に到達するために必要な字数の目安を示すためと、本校の生徒の実態に応じて、書くことを苦手とする生徒に対しての動機付けのためである。

【表2】レポートテストにおける「思考・表現」の評価基準

5	三つ以上の知識や資料から読み取った情報を組み合わせ、社会的事象の原因や背景、意義を解釈しながら問いに答えることができている。事実と自身の考えを分けながら筋道を立てて答えを述べている。
4	二つの知識や資料から読み取った情報を組み合わせて、問いに答えることができている。事実と自身の考えを分けながら筋道を立てて答えを述べている。
3	一つの知識や資料から読み取った情報をもとに、問いに答えることができている。
2	語句を正しく使えていない箇所が見られるものの、一つの知識や資料から問いに対して答えようとしている。
1	語句が正しい意味で使われておらず、問いに対する答えになっていない。

【表3】レポートテストにおける「文字数」の評価基準

5	問いに対して、解答欄の9割以上の文字数で記述している。
4	問いに対して、解答欄の7～9割の文字数で

	記述している。
3	問いに対して、解答欄の5～7割の文字数で記述している。
2	問いに対して、解答欄の3～5割の文字数で記述している。
1	問いに対しての記述が解答欄の3割に満たない。

## (5) 生徒の変容（評価）

### ①予習プリント

予習プリントを実施したことで、授業前や休み時間に多くの生徒が教科書を開いて予習をする姿が見られた。出題範囲が1ページと非常に狭く、学力に関係なく十分な準備をすることで高得点をとることができたため、特に学習に対して苦手意識のある生徒が意欲的に準備をする姿が見られた。全49回の予習プリントが終了した2月下旬に実施した振り返り（68名が実施）では、58名が肯定的な意見を記述していた（[資料4]）。トレーニング学習は、生徒が負担感を感じるものが危惧されたが、生徒の多くが肯定的な意見をもっており、達成感を感じられるという感想をもっていたことから、意欲的に取り組んだ生徒が多かったといえる。

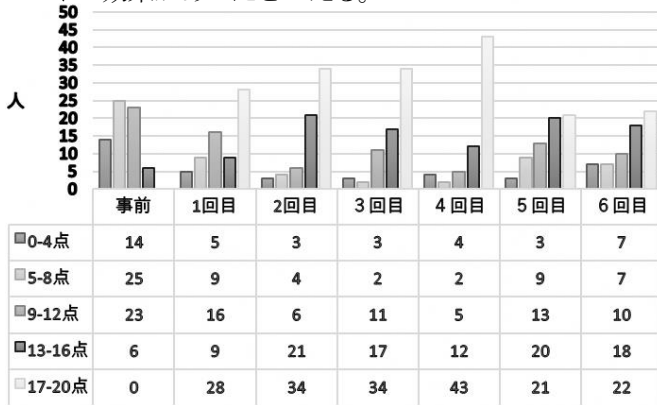
- ・前日に教科書を読むことで授業の内容を理解しやすくなった。また、達成感がある。
- ・友達と休み時間に教科書を見る習慣ができた。
- ・予習した言葉が授業で出てくるので興味がわいた。

【資料4】予習プリントに対する生徒の振り返り

### ②単元語句テスト

全6回実施した単元語句テスト及び事前調査の点数別の人数は[図1]の通りであった。回数を重ねるごとに多くの生徒の点数が上昇した。特に0～4点、5～8点の人数は大きく減少しており、下位層の生徒の基礎的・基本的な知識が定着していることが読み取れる。5、6回目において、17～20点の生徒の数が少なくなっているが、これは、テストの実施時期が高校入試に近付いたため、単元語句テストについての準備時間が減少したためであると考えられる。とはいえ、t検定で分析したところ、事前と4回、事前と6回目で0.00001%水準での有意差が見られたので、語句テ

ストの効果があったといえる。



事前と4回  $P < 0.0000001$       事前と6回  $P < 0.0000001$

【図1】事前調査・単元語句テストの点数別人数

また、6回とも20点満点のうち、教科書の左右ページから10問ずつの出題になるようにテストを制作した。各テストの左右ページごとの点数別人数を表したものが【表4】である。左右どちらのページの得点も回を重ねるごとに高得点層（7点以上）の人数が増えている。単元語句テスト①、④では、予習プリントの対象である左ページの平均点が、右ページの平均点を0.5点以上上回った。左右ページの点数をそれぞれt検定にかけたところ、単元語句テスト①では3%水準で、④では1%水準で有意差があったため、左ページの方が、知識が定着していることが分かる。したがって、トレーニング学習の効果があることが分かった。

【表4】事前調査・単元語句テストの得点別人数（左右ページ別）

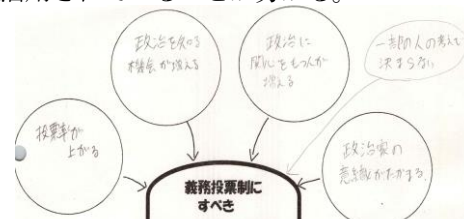
点数	事前調査		単元語句テスト①		単元語句テスト④	
	左ページ (人)	右ページ (人)	左ページ (人)	右ページ (人)	左ページ (人)	右ページ (人)
9・10点	0	2	22	27	45	42
7・8点	9	6	23	8	13	7
5・6点	4	37	8	12	2	8
3・4点	19	15	10	9	3	3
1・2点	36	8	5	12	3	6

$P < 0.03$        $P < 0.01$

### ③思考ツールを用いた社会的な見方・考え方を働かせる学習（日本は義務投票制にすべきか否か）

社会的な事象の原因や背景、意義を説明する際に複数の知識を組み合わせやすいようにするための手立てとして思考ツールの形を工夫した。思考ツールの形の工夫として円を複数用意したことで、必然的に結論に至

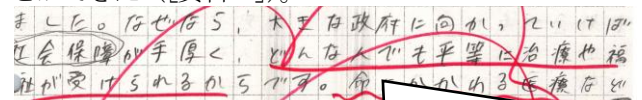
るまでに複数の知識を使うことになり、ほとんどの生徒が自分の力だけで八つの円のうち半数以上に書き込むことができていた（【資料5】）。その後のグループ学習でも、それぞれが円の中に記入した根拠について積極的に意見交換ができた。また、中には思考ツールの円に書いた根拠同士をそれぞれ関連付ける生徒もいた。思考ツールを使ったことにより、一つ一つの知識のつながりをつかみやすくなった具体例といえる。活動終了後、予習プリントや単元語句テストで取り扱った語句や知識が、思考ツールの中にどれだけ使用されているかを検証すると一人あたり、1.59という数字であった。トレーニング学習で得た知識の中でも、問いに関連する語句の数には限りがあることを踏まえると、定着した基礎的・基本的な知識が問題解決のために、一定数活用されていることが分かる。



【資料5】グループ活動後の生徒の思考ツール

### ④レポートテストについて

全てのテストで制限時間を30分に設定して実施した。問いが事前に発表されているため、前もって関連する内容を調べる生徒や、レポートの下書きを準備する生徒も見られた。テスト当日は、制限時間を一杯使う生徒がほとんどであった。生徒の記述の中で使用している語句に着目すると、当該単元（私たちの暮らしと経済）の知識だけではなく、以前学習した単元（個人の尊重と日本国憲法）の知識を踏まえて、問いに対する答えを記述している生徒がいることも読み取ることができた（【資料6】）。



大きな政府に向かっていけば、社会保障が手厚く、どんな人でも平等に治療や福祉が受けられるからです。命にかかわる医療などは格差があつてはいけません。

【資料6】生徒の記述内容



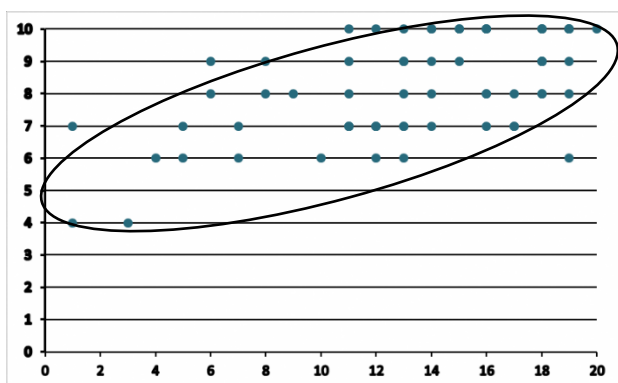
生徒の思考力・表現力を数値化して検証するために、7月、12月、2月にそれぞれ実施したレポートテスト①、③、④について、評価項目である「思考・表現」と「文字数」の5段階をそれぞれ5点満点として、10点満点で得点化した（[資料7]）。

レポートテスト①		レポートテスト③		レポートテスト④	
点数	人数	点数	人数	点数	人数
9・10点	15	9・10点	24	9・10点	25
7・8点	31	7・8点	36	7・8点	35
5・6点	14	5・6点	5	5・6点	4
3・4点	6	3・4点	1	3・4点	3
1・2点	1	1・2点	0	1・2点	0

$p < 0.005$

[資料7] レポートテストの得点レベルの推移

見方・考え方学習を行わずにテストを実施した①と比較すると、見方・考え方学習を行った後にテストを実施した③、④では、9・10点の人数が大きく増加したことが分かった。レポートテスト①と③の結果をt検定にかけたところ、0.5%水準で有意差を確認することができた。一方、レポートテスト③と④の間には有意差は確認できなかった。これらのことから、思考ツールを用いた社会的な見方・考え方を働かせる学習を行った後のレポートテストの方が、同学習を行わない場合と比べて、より多くの知識を関連させて、組み合わせながら自分の結論を述べており、全体的な文字数も増加していることが分かった。また、単元語句テストとレポートテストの関連を調べるために、対応する二つのテストの得点を散布図に表した（[図2]）。



[図2] 単元語句テスト⑤の得点（横軸）とレポートテスト③の得点（縦軸）の散布図

単元語句テストの点数が高い生徒ほど、レポートテストでも優れた成績を収めている傾向を読み取ることができ、基礎的・基本的な知識の定着している生徒ほど、思考力・表現力が高い傾向があることが明らかになった。全4回のレポートテストを終えた生徒の感想は[資料8]の通りである。

・身近なニュースと関わる内容もあったので、世の中について考える機会になった。  
 ・様々な物事に対して自分の考えを書く場面は今まであまりなかったので、社会の授業でできてよかった。

[資料8] レポートテスト後の生徒の感想

#### 4 研究のまとめ

##### (1) 成果

トレーニング学習（予習プリント、単元語句テスト）を1年間継続して行うことで、反復的な学習習慣を構築して、基礎的・基本的な知識を定着させることができた。思考ツールを用いた社会的な見方・考え方を働かせる学習では、それらの知識が一定数活用されることがわかり、複数の知識や情報の関連付けができるようになることが分かった。レポートテストでは、生徒が身に着けた知識を使って社会的現象の原因や背景、意義を解釈して説明できるようになった。このことから、反復的かつ継続的なトレーニング学習と、基礎的・基本的な知識を活用する社会的な見方・考え方を働かせる学習を組み合わせることで、生徒の思考力・表現力を育成する上で有効であることが明らかになった。

##### (2) 課題

レポートテストを素早くフィードバックすることで、思考力・表現力が向上することが予想できたが、レポートテストの評価は、教師側の負担が大きく、作業が追いつかない場合もあった。今後は工夫していきたい。

##### 【主な引用／参考文献】

- ・田中龍彦『討論する歴史の授業⑤』地歴社 2015
- ・加藤寿朗『中学生の社会的思考力・判断力の発達に関する横断的調査研究』全国社会科教育学会 2015